

# 事業のタネシート

活動地域・団体名：みやざきSDGsプラットフォーム

## 事業名称 1：【持続可能なまちづくりとそれを担う人材の育成事業】

### あらすじ

国内外の多様で先進的なまちづくりモデル事例を把握し、その事例をステークホルダーと共有、広く発信することを通じて、自治体や地域住民・企業等の連携が促進される働きかけを行う  
また、国内外とのネットワーク支援を通じて若い世代の育成を行う

### ストーリー

若者減少、人口減少、空き家の増加等々の大きな問題がある一方でその課題に向かう連携型の取組が育っていない。SDGsに取り組みたいと思っ  
ていても、取り組み方がわからず足踏みしている事例が散見される。またSDGsに取り組む事が目的になってしまい、いびつな課題解決につながるケー  
スもある。

高校生・大学生・地域の多様な人々が地域の課題や資源、解決するアイデアを真剣に考え議論する場をつくることで、ありたい未来ビジョンを実現  
する為の場を提供する。その結果として「SDGs未来都市」「自治体SDGsモデル事業」になりえる持続可能なまちづくりを目指す。

事業の骨子		現時点で想定される 課題・ボトルネック
①ありたい未来	地域や人のゆたかな絆の中で、みんなが持てる力を発揮し、生き生きと活躍できる持続可能な未来	地域の課題や未来のことを「自分ごと」に出来ていない意識（ぬるま湯状態）  安定的に自走できる財源の確保
②課題	人口減少/若者流出/高齢化/コミュニティ機能の低下/コロナ禍による関係の希薄化の加速	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	異なるステークホルダーが自分ごととして地域の課題解決と持続可能なまちづくりに連携して取り組む気運と風土を醸成する為	
④地域資源	産学官連携の土壌/人間関係の繋がりが強い マスコミ各社とのネットワーク	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	高校生・大学生・企業等が混ざり合った勉強会、交流会、ワークショップ等の開催 マッチングの機会提供 国内外の多様なモデルの実践者との対話の場を設定する	
⑥担い手（Who）	本プラットフォーム	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	具体的な事業が動き出すことによる「環境」「経済」「社会」の総合的向上	気づきや学びの場を充実させてくれる人 県内の有力企業
⑧事業で生じる成果	SDGsに取り組む自治体・企業の誕生・増加 持続可能なまちづくりに向けた、課題の洗い出しや地域の強み、アイデアが生まれる 事業への落とし込む為の機会やそのフレームワークが学べる	

事業名称 2 : 【地域資源を活かした観光による外貨獲得と地域経済循環事業】		
あらすじ		
豊富な観光資源（体験・自然）を活かして観光客が滞在・消費してもらうプログラムを先進事例に学びながら構築できるような機会を提供するさらに魅力あるプログラムをつくれるよう人と人、地域と地域を結ぶことでプラットフォームの機能を担う		
ストーリー		
<p>豊富な観光資源（体験・自然）がある一方で、宿泊を目的とした滞在型観光ではなく市内滞在時間が短い通過型観光になっている。地域の文化に触れ、地域の住民と交流できる機会が豊富にあり、豊かで深い体験を味わうことが可能な観光で宮崎のファンを増やし世界から選ばれた地域となり得る為には何が必要だろうか。</p> <p>本県の高千穂町にある秋元集落は、人口100人高齢化率60%以上のいわゆる限界集落でありながらも、地元の食材を使った甘酒・どぶろく、料理を開発製造し、世界から観光客が訪れるようになり新しい産業や移住が生まれる地域となった。</p> <p>それぞれの地域が魅力、資源を活かしたスローツーリズムを展開するための、学びや連携促進に向けた働きかけを行う。なお、活動登録メンバーの企業（旅行者）や教育機関等と連携し環境学習・探究学習に繋がる教育プログラムも展開することで、人材育成にも寄与する取組みにもつなげる。</p>		
事業の骨子		現時点で想定される 課題・ボトルネック
①ありたい未来	世界から選ばれた「観光みやざき」	自分の地域には何も無いという意識 地域で核となるコーディネーターの不足
②課題	外貨獲得が少ない（漏れバケツ理論） 観光入れ込み客数・消費額が少ない	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	先進的外部事例のノウハウの普及・定着	
④地域資源	豊富な観光資源（体験・自然） 多くのブランドを持つ農林水産業	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	先進的事例の紹介、学びの機会提供 例）レッド・ルースター（北イタリア）/秋元集落（宮崎県高千穂町）	
⑥担い手（Who）	本プラットフォーム、旅行者、地元観光協会	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	外貨獲得による経済循環	コアとなる実績のある人材
⑧事業で生じる成果	交流人口の増加/雇用拡大/外貨獲得	

**事業名称3：【エネルギーの高度化・バイオマスや食品残渣の活用促進事業】**

あらすじ

県内には家畜糞尿や食品残渣を活用したバイオマス発電、エコフィードの事例が多数あるうえ、企業間が連携し産業廃棄物の再資源化に取り組む等優良事例が生まれている。そうした連携や優良事例を共有し域内で新たな取組の加速、促進につなげる

ストーリー

プロイラー飼養羽数日本一の本県では鶏糞をボイラーで燃焼して発電し、焼却灰は肥料として活用する資源循環と取組が進められている。  
また、パンの耳などを原料としたエコフィード（リサイクル飼料）や、放置竹林の竹を粉砕し乳酸発酵させた飼料・土壌改良材、出荷量日本一である焼酎粕を飼料で育てた高品質な地域特産畜産物（ブランドポーク、ブランド牛）が県内各地で多数誕生している。  
また、異なる業種の企業が連携し、産業廃棄物を再資源化する取組もあり、そのノウハウを持つ企業の存在や連携する土壌があることが地域の資源である。  
本プラットフォームの機能として、マッチングや勉強会、視察等の機会を提供することで、太陽光や太陽熱、森林資源のカスケード利用にむけた取組等の促進を支援する。

事業の骨子		現時点で想定される 課題・ボトルネック
①ありたい未来	ひと・自然・地域がともに輝く持続可能なみやさき	環境負荷が高い農業生産に対する課題認識の低さ エネルギー自給に対する経済的メリットの高さに気づいていないこと
②課題	農業生産における環境負荷が高い/地域資源を活かしきれていない/数値の見える化が出来ていない/耕作放棄地の増加/森林の再造林が進んでいない	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	地域エネルギーや資源を有効活用することで、環境負荷の軽減を図ること	
④地域資源	豊富な農林水産資源/バイオマス・太陽光・太陽熱等のエネルギー資源	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	家畜糞尿や食品残渣、産業廃棄物等を再利用し、エネルギー、堆肥・液肥、飼料を生成するスキームやノウハウの拡大とそれに向けた普及・啓発 (本プラットフォームの機能・サービス：情報収集、勉強会、視察、マッチングの機会提供)	
⑥担い手（Who）	本プラットフォーム、地元企業	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	エネルギーの地産地消による地域経済循環 堆肥、飼料等の域内調達による環境・経済循環	サーキュラーエコミーを実践している団体・自治体
⑧事業で生じる成果	廃棄物の資源化/廃棄コストの減少/堆肥等の県外調達の減少による資金の域外流出の軽減/温室効果ガスの削減/環境負荷に配慮した定常経済の実現	